

# バオバブの会 2013年度支援報告

\*今年度の支援金は2013年10月15日に一括して送金されましたが、その内訳は以下のとおりです。

## 1. 定期（定額）支援

### (1) 以前からの支援先

学校名	送金額	現地受領額
サルム・ジャネ小学校	50,000円	236,000 Fcfa
サーバシ・チャム小学校	50,000円	236,000 Fcfa
ンジャゴ小学校	50,000円	236,000 Fcfa
サルム・ジャネ中学校	100,000円	473,000 Fcfa
障がい児を支援する教師の会	50,000円	236,000 Fcfa

写真左：サルム・ジャネ中学校 2010年度の支援による電気設備、2011～2012年度に贈ったベンチ付き長机等により、学習環境が格段に向上しました。

写真中：サーバシ・チャム小学校 左の建物が、バオバブの会の支援により、2011年に開館した図書館です。

写真右：2011年度の支援金で購入した、サーバシ・チャム小学校の給食用改良型かまど。



バオバブの会の支援による、ンジャゴ小学校の学校設備

写真左：校門

写真中：水道

写真右：2011年度の支援で完成した教室（右の建物）



\*\*\*\*\*障がい児を支援する教師の会（AESEH Amicale des Enseignants Souteneurs des Elèves Handicapés）は、セネガルのファティック市から10キロほど東のMbellacadio（ンベラカジャオ）地区にある、チャバ小学校の校長アマディ・ジャロさんが、同地区の4つの学校に勤務する7人の先生と共に2008年に結成しました。以来、毎年、同地区の19の小中学校で障がい児の調査をし、車椅子、松葉杖、学用品などを贈っています。バオバブの会は2010年度にAESEHの支援を始めましたが、それにより、学用品を贈る子どもたちの数を、当初の61人から2013年度は82人にまで増やすことができ、障がい児の就学率向上に大きな効果をあげています。また、学用品贈呈の際に行われる授与式は、未だ障がいに対する正しい理解がないため差別されることの多い子どもたちに自信を与え、就学意欲を高める機会となっています。\*\*\*\*\*

写真左：左から2番目がジャロさん。写真中：AESEHは、地域の障がい者組織とも連携して活動しています。中央は、ファティックの障がい者会の会長。写真右：2011年に行われた初の学用品授与式での子どもたちと父兄。



## （2）2012年度からの支援校

学校名	送金額	現地受領額
クール・マジヤベル小学校	50,000円	236,000Fcfa

元ンジャゴ小学校校長の転任校。生徒数650、各学年2クラス全12クラスの大規模な学校。小学校過程修了試験、中学校入学試験の結果も良好。学校運営も堅実。情報提供にも協力的。

ンジャウ・マリック小学校	50,000円	236,000Fcfa
--------------	---------	-------------

元サーバン・チャム小学校教諭で図書館新設に頑張ってくれたコリー先生が、新たに校長として赴任した学校。生徒数84のまだ小さな学校。

写真左：クール・マジヤベル小学校校門  
写真中：クール・マジヤベル小学校での歓迎式典で。スピーチしているのが校長先生。  
写真右：ンジャウ・マリック小学校で。右から2番目が校長。



(3) 新規支援校

学校名	送金額	現地受領額
サーバシ・チャム アラブ語学校	30,000円	142,000 Fcfa

サーバシ・チャム村にあるアラブ語学校。生徒数52。

2. 施設整備

(1) ンジャゴ小学校図書館建物建設費用として

182,625円 (現地受領額864,000 Fcfa)

(2) サルム・ジャネ小学校の教室修理費用として

64,625円 (現地受領額306,000 Fcfa)

\*\*\*\*\* 参考資料 \*\*\*\*\*

学校運営資金についての問い合わせに対する回答 (要旨)

クール・マジヤベル小学校校長 ウセイヌ・ンボウ

公立学校の特に資金面での運営はどうなっているのか、また、バオバブの会からの支援金注1が年間の運営資金の中でどれくらいの割合を占めるのか、というご質問に正確にお答えするのは難しいものがあります。というのは、学校の運営資金自体が非常に不安定なものであるからです。

まず、国家は、学校を作り、教室等ある程度の設備を整え、教員を募集します。公立学校の教員の給与は、国家から、毎月末に、直接、支払われます注2。

その後、教育、健康、スポーツ、文化の促進についての責任は、地方自治体に委任されます。しかし、そのための資金(補助金)は、現場の必要と比べて、わずかなものでしかありません。例えば、クール・マジヤベル村には2つの保育園、4つの小学校、1つの中学校と1つの高等学校がありますが、今年度の補助金は2,300,000Fcfa(460,000円)でした。そして、そこから小学校に支給されたのは、子どもたち1人に1冊ずつのノートと、教師1人に白のチョーク3箱とカラー・チョーク1箱でした。

公立小学校は父兄から登録料(授業料)をもらうことができませんので、電気、水道、管理人などの費用を払うために、私たちの学校では、1年間に、生徒1人につき1,000 Fcfa(200円)を集めています。が、払えない、または払わない父兄も多いので、学校運営はしばしば困窮に陥ります。今年度は、電気料を滞納したために、休暇中に電気を止められてしまいました。

このような状況をお話すれば、私たちにとってバオバブの会からいただく支援金が本当にありがたいものであることと、私たちが、皆様のご支援に対して、どれほどの感謝の思いを抱いているか、おわかりいただけると思います。

注1: バオバブの会の公立小学校への定期支援は、1年間に50,000円です。

注2: 教員の給料の遅配がしばしばあり、それに対して教員はストライキで対抗するため、学年開始が遅れることもよくあるようです。